

高知県金融経済概況

【概 論】

高知県の景気は、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱めの動きがみられる中、そのペースは鈍化している。

前回の概況公表時（3月中旬）以降の県内景気を見ると、個人消費は一部で弱めの動きがみられるものの、持ち直している。観光は増加している。設備投資、公共投資は弱めの動きとなっている。住宅投資は減少している。この間、製造業の生産は一部で弱めの動きがみられるものの、全体では横ばい圏内で推移している。そうしたもと、労働需給は改善の動きに一服感がみられるものの、引き続き引き締まった状態となっている。雇用者所得は増加している。

先行きについては、企業・家計の両部門において、所得から支出への前向きな循環が続くもとで、持ち直しの動きが続くとみられる。ただし、①コスト上昇と価格転嫁の動向、②人手不足の影響、③海外経済の動向の影響等について、注視していく必要がある。

【各 論】

1. 需要項目別の動向

公共投資は、弱めの動きとなっている。

発注の動きを示す公共工事請負金額をみると、24/3月は前年を上回った（24/3月前年比：+3.0%）。

設備投資は、弱めの動きとなっている。

2023年度の設備投資額（24/3月短観）は、非製造業を中心に前年度を下回っている（全産業前年度比：▲21.0%）。

2024年度の設備投資額は、維持更新目的やBCP対応等の投資が底堅く実施される計画にあるものの、2023年度まで実施されてきた設備投資が一巡するもとで、非製造業を中心に、前年度を下回る計画となっている（同：▲11.4%）。

この間、企業からみた生産設備や営業用設備の過不足感（24/3月短観）は、過剰超となっている（生産・営業用設備判断D. I. <「過剰」－「不足」>、23/12月：+2→24/3月：+3）。

個人消費は、一部で弱めの動きがみられるものの、持ち直している。

大型小売店¹、コンビニエンスストアの販売動向、旅行取扱高は、着実に持ち直している。家電量販店の販売動向は、弱めの動きとなっている。乗用車新車登録台数（24/2月前年比：▲24.5%）は、減少している。

観光は、増加している。

24/2月の県内の主要観光施設への入込客数（24/2月前年比：+50.0%＜速報値＞）と主要旅館・ホテルの宿泊客数（同：+7.4%）は、ともに前年を上回った。

住宅投資は、減少している。

24/2月の新設住宅着工戸数は、前年を下回った（24/2月前年比：▲13.3%）。

2. 生産

製造業の生産は、一部で弱めの動きがみられるものの、全体では横ばい圏内で推移している。

機械は、一部でやや弱めの動きがみられるものの、全体では緩やかに持ち直している。食料品は、横ばい圏内で推移している。窯業・土石製品は、弱めの動きが続いているものの、全体としては下げ止まっている。パルプ・紙・紙加工品、鉄鋼は、減少している。

3. 雇用・所得

労働需給は、改善の動きに一服感がみられるものの、引き続き引き締まった状態となっている。

24/2月の有効求人倍率は、前月と同水準となった（24/2月：1.08倍）。

雇用者所得は、増加している。

24/1月の1人当りの現金給与総額は、前年を上回った（24/1月前年比：+5.1%＜速報値＞）。

4. 物価

消費者物価（高知市、生鮮食品を除く総合）は、生鮮食品を除く食料等が前年を上回ったため、前年比プラスとなった（24/2月前年比：+3.5%）。

5. 企業倒産

企業倒産は、低めの水準で推移している（24/3月：倒産件数2件＜前年0件＞、負債総額540百万円）。

¹ 県内の百貨店、ショッピングセンター、スーパー等。

6. 金融

実質預金(銀行、信金、信組)は、前年を上回っている(24/2月末残前年比: +0.8%)。

貸出(同)は、前年を上回っている(同: +0.1%)。

貸出約定平均金利(銀行、信金)は、前月を下回っている(24/2月: 1.207%)。

以 上

【本文中の使用計数等の出所】

- ・ 乗用車新車登録台数: 四国運輸局「自動車保有台数と販売状況速報」、主要観光施設への入込客数: 高知県「月別観光施設利用実績」、新設住宅着工戸数: 国土交通省「建築着工統計調査報告」、公共工事請負金額: 西日本建設業保証株式会社「高知県内の公共工事動向」、有効求人倍率: 厚生労働省「一般職業紹介状況」、現金給与総額: 高知県「毎月勤労統計調査地方調査」、消費者物価(高知市、生鮮食品を除く総合): 総務省「消費者物価指数」、企業倒産: 東京商工リサーチ「高知県企業倒産状況」。
- ・ その他の項目は、日本銀行高知支店が個別に収集したもの。
- ・ なお、利用統計は公表月によって異なる。